

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 2014年度
「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」
プロジェクト型

研究成果報告書

研究課題名：

「計画経済に埋め込まれた市場」としてのコルホーズ市場に関する研究

申請者：日臺健雄（埼玉学園大学経済経営学部・准教授）

構成員：志田仁完（一橋大学経済研究所・研究機関研究員）

本研究の目的と背景

本研究では、いわば「計画経済の中に埋め込まれた市場メカニズム」といえる存在であったソ連のコルホーズ市場について、ロシア現地の公文書館に所蔵される一次史料を利用することにより、その実態と機能の解明を進めることを目的としている。

1917年のロシア革命を経て成立したソヴェト政権は、戦時共産主義を経て1921年に「ネップ」へと経済政策を転換したが、そこでは市場メカニズムが一定の制限の下で認められた。しかし、スターリンが権力を掌握した1920年代半ば以降、五カ年計画のもとで工業化が急速に進展し、農村部では農業集団化が強行されていく中で、市場メカニズムへの制限と計画経済の全面化が推進された。その結果、1930年代に入ると、市場メカニズムが機能する場はコルホーズ市場（およびヤミ経済ないし第二経済）に限られるようになった。このことは、逆にみれば、スターリン体制の下で計画経済の全面化が図られていく中においても、コルホーズ市場において機能する市場メカニズムは廃絶できなかったということを意味している。このように、コルホーズ市場（ならびにそこで機能する市場メカニズム）は、計画経済で特徴付けられるソ連経済史において特異な位置を占めている。それゆえ、このコルホーズ市場が果たした機能と実態を解明することは、ソ連経済史の研究に資することはいうまでもなく、それに加え、計画経済と市場経済との関係を考察する比較経済システム論の研究にも貢献することとなる。

上記の課題を遂行するために、本研究では、ソ連における「指令的」な計画システムの構築が急速に進んだ1930年代から、その機能が安定化し停滞するようになったソ連末期までの長期におよぶコルホーズ市場の検証を通して、計画の枠組みの内部における「市場メカニズム」がいかなるものであったのかを実証的に明らかにする。

研究実施の概要

本研究を実施するにあたり、日臺は計画経済が全面化した1930年代のコルホーズ市場を対象として経済史・社会史的アプローチによって研究を進める一方で、志田はソ連の初期から末期に至る長期間にわたるコルホーズ市場を含む第二経済を中心的な対象として、計量経済学アプローチによって研究を進めた。その過程で、日臺は北海道大学附属総合図書館およびスラブ・ユーラシア研究センター図書室における資料収集を2014年5月以降、複数回にわたりおこなうとともに、2014年8月から9月にかけてロシア連邦モスクワ市において資料収集をおこなった。その際、ロシア連邦国立文書館（ГАРФ）ならびにロシア国立経済文書館（РГАЭ）においてコルホーズ市場関連の資料を収集した。

2014年12月14日に開催された北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおいて開催された共同研究報告会では、日臺が「計画経済に埋め込まれた市場」としてのコルホーズ市場に関する研究」と題して、本研究プロジェクトの概要と進行状況について報告をおこなった。

2015年2月2日に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターにおいて開催されたプロジェクト型共同研究報告会「ソ連におけるコルホーズ市場と非公式経済：計画経済に埋め込まれた市場の役割」では、日臺が本研究プロジェクトの目的と概要を説明した後、志田が「不足、非公式市場、家計貯蓄：ソ連構成共和国の実証分析、1965-1989」と題する報告を行い、つづいて日臺が「コルホーズ市場における取引内容と住民生活：1930年代後期スヴェルドロフスク州の事例を中心に」と題する報告を行った。

研究成果の公開

本研究プロジェクトによって得られた資料や知見をもとにして、日臺および志田は2015年8月に幕張で開催される ICCEES（中欧・東欧研究国際協議会）世界大会において、下記の研究発表をおこなう予定である（Takeo HIDAI, “On Some Aspects of Soviet Kolkhoz Farmer’s Attitude toward the Stalin Regime”, Yoshisada SHIDA, “Household Saving Behavior under the Shortage Economy: Panel Data Analysis for the Soviet Republics”）。

また、日臺は2015年10月10-11日に開催されるロシア史研究会年次大会において「コルホーズ市場における取引内容と住民生活：1930年代後期ソ連スヴェルドロフスク州の事例を中心に」というタイトルで報告をおこなう予定である。志田は、英文の学術誌で研究成果を公表すべく準備をおこなっている。

以上